

身近な文化財

第六話

各地に残る
中世城館

市内のお城と言えば、小峰城や白川城がよく知られています。この他に、鎌倉時代から戦国時代にかけて、堀や土塁（土を盛り上げて作った土手）で築かれた城館跡が多く確認されています。今回は、その中から3か所をご紹介します。

【天王館跡（表郷河東田）】

社川左岸の独立丘陵に位置します。浅川や棚倉に通じる道を見渡す重要な場所に、曲輪（平場）や空堀などが東西約120m、南北約160mの範囲に残っています。頂上部には主要な曲輪があり、曲輪を取り巻くように空堀が配置されています。

【富沢館跡（大信下小屋）】

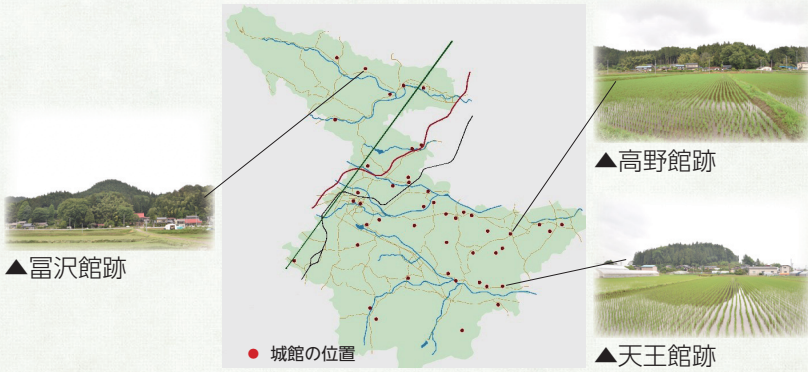
隈戸川左岸の丘陵に位置します。曲輪や空堀などが、東西約420m、南北約450mの範囲に残っています。城館としては、白河結城氏の本拠であった白川城に次ぐ規模があります。

【高野館跡（東初本）】

矢武川左岸の丘陵に位置します。曲輪や空堀などが、東西約350m、南北約190mの範囲に残っています。茨城県側から白河に通じる重要な地点に築かれています。

白河の中世に築かれた城館の

《中世城館位置図》



多くは、丘陵などの自然地形を利用して、各地へ通じる主要な道を監視できるような場所に築かれています。市内では、約50か所で確認されており、みなさんの身近な所にも地域を治めた武士の拠点の跡を見ることが出来ます。

文化財課 ☎2310

～自河の景観を守り・つくり・育てる～
景観まちづくり通信 Vol.6
 ☎本庁舎都市計画課 内2232

おすすめ景観募集中!
 日常生活で見つけた白河のおすすめ景観をInstagramで教えてください。
 ※詳しくは市ホームページへ

今月号は「歴史的まちなみ修景事業」をお知らせします。
 私たちのまちは、建物のほか、道路や公園、街路樹などさまざまな要素で構成されています。
 市では、歴史的な建物が数多く存在する旧奥州街道（現在の国道294号）沿いを、重点的に景観形成を推進する地区に指定し、さまざまな取り組みを行っています。
 その一つとして、街道沿いに残る歴史的な建物と現代の街並みが調和する良好な景観を形成するため、景観形成ガイドラインに基づく建物の修景などに対し費用の一部を補助する「歴史的まちなみ修景事業」に取り組んでいます。

▶補助の対象区域や対象事業など詳しくは、市ホームページをご覧ください。



修景事例をご紹介します。
 ビニール製の庇（ひさし）を撤去し、壁は1階を木板、2階を漆喰調に修景しました。
 勾配の屋根が通りから見えるようになり、窓には木製の格子を設けるなど、歴史的な街並みと調和を図りました。

お知らせ
 ラウンジ
 りげらん
 シリーズ
 子育て
 保健
 暮らしの情報館
 ゼロカーボン
 高齢者サロン
 休日当番医・無料相談ほか
 市長の手控え帖